

指導用ルーブリックを基にした自己評価の結果等

平成30年度学校訪問で実施した、指導用ルーブリックに基づく授業の自己評価の集計結果により、授業改善の視点を示す。また、指導力向上や校内研究テーマに迫る指導の実現を目指すため、指導用ルーブリックを活用した授業研究会の進め方を紹介する。

1 平成30年度 授業の自己評価集計結果

視点	項目 <一部省略して記載>	割合 (%)	
1	適切な目標（「何ができるようにするか」）が設定できたか。	55.5	58.3
	目標を達成できたか評価できる評価規準が設定できたか。		46.4
	学習意欲を高められるような導入場面であったか。		61.7
2	本時の課題を正しく伝えることができたか。	55.3	79.3
	主につまずいている子供たちへの支援を準備し、実行できたか。		36.6
	適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。		58.3
	学習活動は、目標の達成につながっていたか。		46.8
3	子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できていたか。	59.2	74.9
	子供たちの考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。		63.7
	子供たちの考えを板書できていたか。		39.0
4	本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。	41.8	42.0
	子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。		43.7
	子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。		39.7
5	本時の子供たちの変容を評価することができたか。	42.6	27.5
	評価するための方法や場面を設定することができたか。		45.1
	本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。		55.2

～考察～

ルーブリックにおいて**授業の根幹**として捉える**視点1**の目指すべき目標と**視点5**の学びの評価については、それぞれ、55.5%、42.6%に留まった。これらについては、今後も日々の授業づくりで意識して取り組んでいくことが望ましい。（**視点1「目指すべき目標と評価規準の設定」**については、p3のグッドプラクティスを参照）

なお、**視点2～4**の各小項目において達成率が低かったものは以下のとおりである。

（青色の枠・・・40%未満）

- ・つまずいている子供たちへの支援 **（主に主体的な学びに関して）** (36.6%)
- ・考えを板書すること **（主に対話的な学びに関して）** (39.0%)
- ・子供たちが働かせていた「見方・考え方」の可視化 **（主に深い学びに関して）** (39.7%)

達成率が低かった上記のような項目は、今後一層重視すべき授業改善の視点であると考えられる。

2 授業研究会の進め方例

【事前】指導案検討等

～授業のねらい・手立ての共有～

- ・**授業者は**ルーブリックのチェック項目に従って、指導案を作成する。
- ・本時で身に付けさせたい資質・能力（本時の目標）を中心に**（学年で）**検討する。
- ※指導案検討の際は、必ず**視点1 & 5**について**共通理解**を図る。



研究授業

～子供の変容を記録～

- ・**参会者は**指導案に記載された『本時の目標』の実現に向け、子供がどのように学んでいるか、**目標に照らし、子供の変容を見取る。**
- ※**子供の発言、ノートへの記述**等を記録しながら参観。
- ※目標に迫るための手立てが有効であるか、**子供が学ぶ姿を記録。**



【事後】研究協議

～授業をとおした手立ての検証～

- ・**授業者は**子供が目標達成したか、**視点1 & 5**に基づき説明する。
- ・目標を達成するための方策を、**視点2～4**に沿って、**参会者全体**で協議する。
- ※**子供たちの変容**をもとに、手立ても効果がなかったかを協議する。
- ※**評価が分かれた**視点や項目を協議する。

